

# だっこだっこあみだっこ

ぼく・わたしを育てるほとけのことば

がっしょう  
「合掌」



りっぱにおつとめ！  
花まつりこども奉納会

くらしの歳時記

4コマまんが

母 悲喜こもごも

平成 28 年

5 . 6

東山浄苑東本願寺発！ママと子どものフリーペーパーだっこだっこあみだっこです♪

あみださまは、おかあさんの「だっこ」のように、あたたかくわたしたちをみまもって

下さっている—そのことに気づいたとき、わたしたちは安心して、自信をもって生きていけます。

未来をになう子どもたちは社会の宝もの。その子どもを育てる子育ては、とても尊い大事なことです。いい子になってほしい、と思いながらも、ほんとうのやさしさ、かしこさ、強さってなんだろう？ 悪いことをしたらどう叱ったらいいの？ —ほとけさまの教えが、悩めるパパ、ママのともしびになりますように。ぜひ、ご家族みなさんでお読みください♪

FREE Paper

# ぼく・わたしを育てる ほとけのことば

今月のことば：「合掌」（がっしょう）—自分のいいところとわるいところを知ろう—

仏教には、今のわたしたちにとって、あたたかなともしびとなることばがたくさんあります。

「ほとけのことば」から、わたしたちの日々のくらしの目標をかんがえてみましょう♪

## 合掌（がっしょう）ってなあに？

手と手を合わせて行う仏さまへのご挨拶を「合掌」といいます。もともとは、仏教が生まれたインドという国での礼儀作法（れいぎさほう）で、目上の人に対する最高の礼です。合掌をするときは、手にお念珠を持って「南無阿弥陀仏/なむあみだぶつ」と声に出して言きましょう。

## 「なむあみだぶつ」ってどういうこと？

みなさんはお寺に行ったときに、仏さまにお願い事をしていませんか？「成績が良くなりますように」とか「運動会で一等賞になれますように」と考えながら、合掌礼拝（がっしょうらいはい）をしていませんか？

合掌礼拝とは、仏さまにお願い事をするものではありません。「南無阿弥陀仏」とは、「阿弥陀さまに帰依（きえ）します、深く信じておすがりします」という意味なのです。阿弥陀さまは、わたしたち生きとし生けるものを、一人もらさず必ず救う、と誓いをたて、気の遠くなるほどの長い年月の修行を経られて仏さまになりました。このことを知ったとき、あまりのありがたさ、もったいなさに、手を合わさずにはいられない、「南無阿弥陀仏」と言わずにおれない—これが、「合掌礼拝」です。

## どうしてお念珠を持つの？

合掌の時にはどうしてお念珠（お数珠）をもつのでしょうか？

インドにおいて、お釈迦さまの時に念珠が既にあったことが、木槵経（もくげんきょう）というお経に見えます。日本には、仏教伝来とともに伝わったといわれ、当初は高僧や貴族しか持てない貴重なものでしたが、平安時代のおわり頃、念仏による救いを説く、浄土宗や浄土真宗の隆盛によって、お念珠も広まったそうです。

今から約500年前、浄土真宗のご僧侶蓮如（れんにょ）さまは、お念珠を持たずに礼拝することを、「仏をば手づかみにこそせられたり」、つまり、仏さまを手づかみにするようなものである、ととがめられました。

信心があればお念珠がなくてもいい、作法なんてどうだっていい、と思う人もいるかもしれませんが。しかし、大切な人や尊敬する人に会うとき、ごあいさつをするときに、敬意（尊敬する気持ち）や感謝の気持ちを伝え、表すのは、正しい作法・正しい姿です。お念珠は合掌礼拝するための大切な法具（ほうぐ）です。振り回したり、床の上に直接置いたりせず、お念珠袋などに入れて大切に扱ひましょう。



お念珠をもって合掌する僧侶と民衆

（親鸞聖人絵伝より）

## 合掌のときのお念珠のかけかたは？



合掌をするときは、お念珠の房（ふさ）が下にくるようにして、親指と人差し指の間にお念珠を掛けます。（一輪念珠の場合）

※合掌していないとき、お念珠は左手に持ちます



合掌のすがた

正しいお参りのしかたを知り、仏さまを敬い感謝する気持ちを正しく表現できるようになることは、とても大切なことですね。

## いいところとわるいところを知ろう

どんな人でも、いいところとわるいところを持っていますね。とっても優しい人だけれどつつい息（なま）けてしまうところがあったり、勉強はとってもできるけれど威張（いば）ってしまったり。そんな人を見たときに、私たちは「よくないな」「まちがっているな」と思います。しかし、誰でも必ず、いいところだけでなく悪いところを持っています。人のことを「よくないな」と思っているこの自分にも、悪いところがある、ということに、まず気づきましょう。

阿弥陀さまの前では、子どもも大人も、みんなまだまだ直さないといけないところがあります。みんな同じくらい、いいところやわるいところがあるのです。そして、悪いところは、いっしょうけんめい直そうとしても、なかなか直すことができません。

でも、「自分はダメだな」と落ち込む必要はありません。阿弥陀さまは、私たちを大きな慈悲（じひ）の心で包み込み、悪いところもいいところもある私たちを、そのままで救って下さるのです。なんとありがたいことでしょう。



謙虚なきもちの最たるものが、「阿弥陀さまに帰依します、心から深く信じておすがりします」という「南無阿弥陀仏」のお念仏です。謙虚な気持ちを持ちながら生きていくと、うまくいかないことや嫌な目にあってしまった時でも、怒ったり人のせいにしたりしなくなります。「僕にもできないことがあるな」「わたしも間違えることがあるな」と自分を正しく見つめ、おともだちや兄弟にも、優しい気持ちを持つことができるようになるのです。



礼拝も法要も、親子仏法の集いも、合掌に始まり、合掌に終わります。みなさんも暮らしの中で、おうちでお仏壇（ぶつだん）にお供（そな）えをするとき、お寺にお参りするとき、お念珠をもって合掌をし、「もったいない、ありがたい」の気持ちをこめて、「なおあみだぶつ」とごあいさつをしましょう。

# 菜園日記

—土に親しもう！—


東山浄苑東本願寺には、親子で野菜の種まき・収穫体験ができる(\*)菜園があるのを知っていますか？その名も「あみだっこ菜園」です♪

(\*) 毎月第3日曜日に開催している親子向けイベント「親子仏法の集い」。詳しくは最後のページに！


4月3日(日)は、「ズッキーニの種まき」を行いました。

冬にみんなで作ったふかふかの土に、お野菜の種まきをしました！


ズッキーニの種が芽を出すように、水やりもがんばったね♪




ビニールひもを使って、ズッキーニの種をまく間隔を決めました！



種をまいたら、協力して水やりをしました♪



みんなで植えたたまねぎも立派な葉っぱをつけてきました！



5月の収穫(しゅうかく)が楽しみです♪

みんなで「ハイ、チーズ★」

だっこだっこあみだっこは、毎月東山浄苑東本願寺で開催している「親子仏法の集い」の活動内容をもとに編集しています♪

## 親子仏法の集い-仏法に親しもう 土に親しもう!-つてなあに？

毎月第3日曜日（行事等で変更の場合あり）に、東山浄苑東本願寺の菜園で行っている親子向けの活動。なんでもありがたくいただいて、粗末にしない—古きよき日本人を育てた仏教の教えです。家族で野菜づくりや年中行事に親しみ、「いただきます」「ありがたい」の豊かなところを育てましょう。乳幼児から中学生までのお子さんご家族はどなたでも参加できます。初参加歓迎！（初回参加は無料です♪）お気軽にお尋ねくださいね。



【活動日】毎月第3日曜日 【場所】東山浄苑東本願寺 【参加費】1家族1回 1,000円 **初回参加無料!**

※ベビールーム完備 ※屋内無料駐車場有り ※参加ご家族30組限定 ※3月活動は第2日曜日に実施

★お問合せ・参加のお申込みは★

**東山浄苑東本願寺 総合受付** 電話 **075-541-8391** 毎日9:00 ~17:00

### —参加者募集中！今後の親子仏法の集いご案内—

\*初回参加は無料\*

5月22日 玉ねぎの収穫・オクラの種まき

6月19日 セロリの種まき

**10時~12時**

○場 所：東山浄苑東本願寺内 ○参加費：1家族 1,000円

\*\*事前にお電話でお申込み下さい。

\*\*野菜の生育状況などによって、活動内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承下さい。

**雨天の場合は、「お念珠袋づくり」など室内企画を行います！お楽しみに♪**

「お下がりをいただく」ということを最近あまり聞かないかもしれません。

いただいたお菓子や果物などは、まずお仏壇の仏さまにお供えして、合掌礼拝する。

その後、仏さまのお下がりとして、そのお菓子をいただく—

親子仏法の集いでは、この作法とところを大切に、子どもたちに伝えています。

古きよき日本人のころを育てた仏さまの教え。

野菜づくりや、さまざまな体験を通して、一緒に成長しましょう！

だっこだっこあみだっこ 平成28年5・6月号

平成28年5月1日発行 発行・印刷/東山浄苑東本願寺 〒607-8461 京都市山科区上山旭山町 8-1 電話 075-541-8391

**無料**